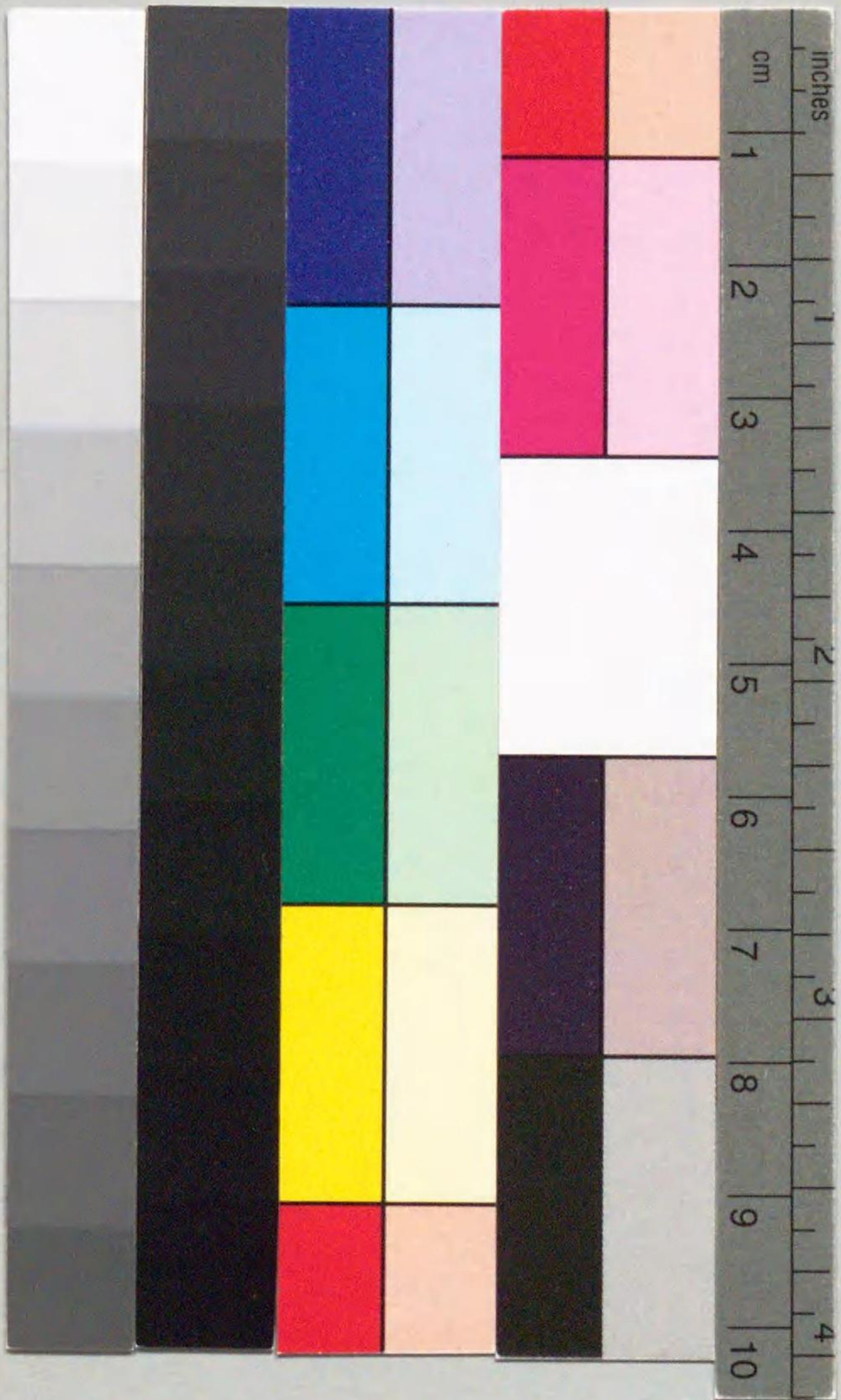


煎茶小述

全

856
8

煎茶小述



都龍軒山本德潤著

煎茶小述

東都書肆 嵩山房發兌



摘露悟霞候正
餘一棧試嘗新
鳳餅龍團末何似
芽槍甲真輕一片旗

翻一槍儼神兵一出
奏芳勲凱旋但見清
風過降伏睡魔十萬
軍靈第檐紅旭暎烏

紗縠雨初收天氣嘉
領得山園春富貴牡
丹開處煮新茶

賞雨老人題

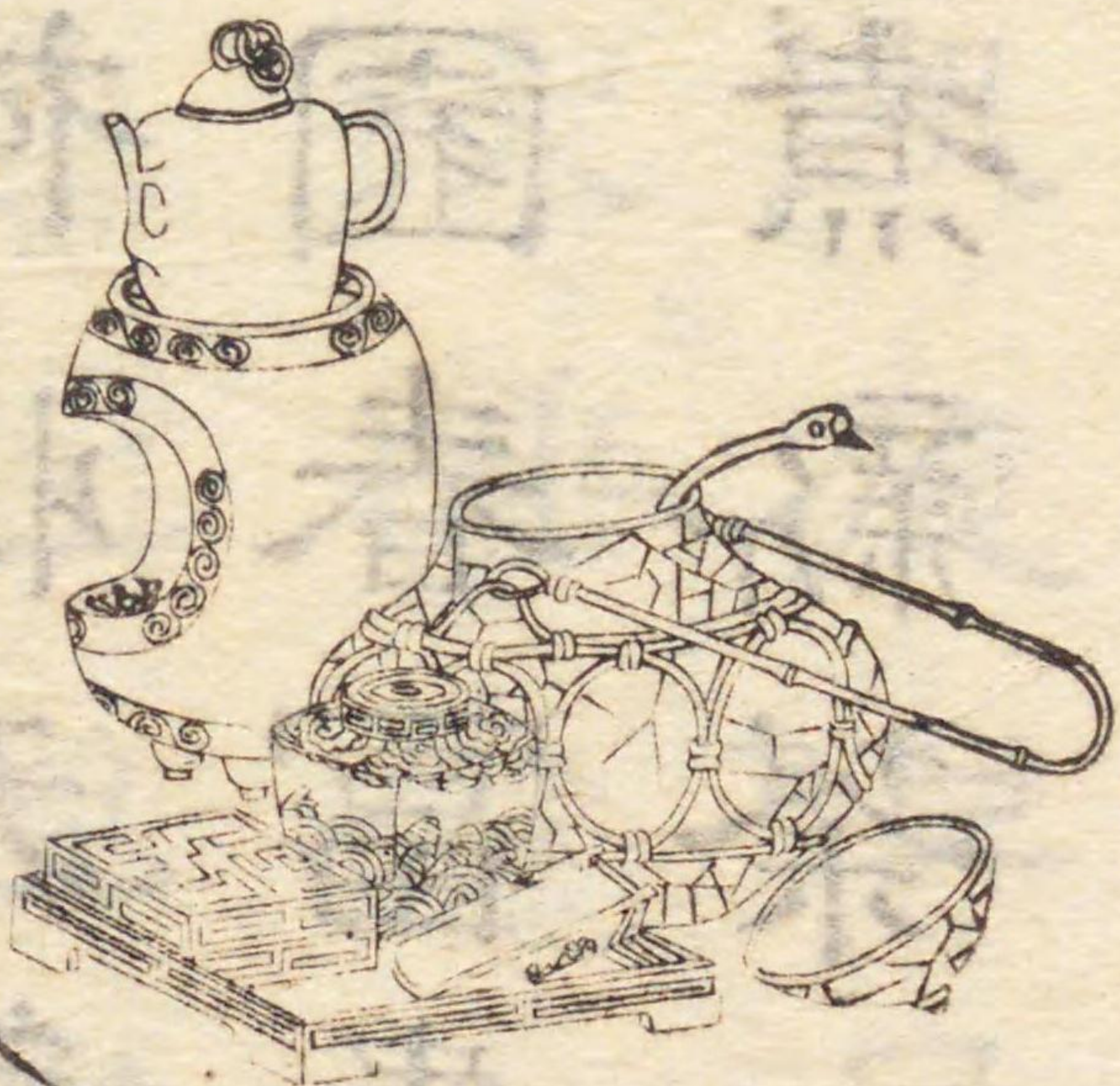
觀

月圓之吐香
相破帽籠頭手
自煎七椀不妨
都喫了恁閑笑
心寫羣仙

鄭所南詩

夢山修書

任印



霞舫

印

茶之類
茶之類
茶之類
茶之類
茶之類



霞舫



目次

茶之原

茶之效

藏茶

擇器

擇水

擇炭

湯候

煎法

淹茶

茶之産

百花茶

茶食

清賞

煎茶通

茶之原

都龍軒主人山本徳潤撰

神農シノノホ本經ホシキヤウいさく。茶味チ苦カ。これを飲ノムば人成

しを思オモヒを益マし。眠マイ少チく。身ミを輕カく。目メを明アく。

はと。上古シヤウコハくく薬品ヤクヒン小備ソナへて。飲ノミとせむるこたす。

とうや。晋シンの代シ小至チりて杜毓トイ葬賦キョノフを作る。早ハく採トと茶チと

つひ。晩く採るを茗とつひ。再晩と辨とつひ。あれ茶飲成
然れども詩賦にハ茗とつひ。辨とつひも皆茶あり。
賞シヤウ既シせる始ハジメあるべし。王褒ワウ僮約トウヤクは牽犬ヒキイヌ敗シ鷲武シウブ
陽ヤウ買ニ茶カフといひ。張華チヤウ博物志ブツシハ真茶シンと飲シハ人
よして眠少うしむとありて。茶を賞する人あ
るといふも。盛んは行りてあつとも聞キコふ也。
唐タウの代み至りて。陸羽リクウ茶經チャキヤウを著す。あまを賞
既シせしより。其風流盛んはありて。温庭筠オンテイイン採茶

録ロクあり。張チヤウ又イウ新煎茶シンセンチャ水記スイキを著す。盧仝ロトウ茶歌チャカあ
り。陸龜蒙リクキモウ皮日休ヒジツキウ茶中十詠チャチュウジウテイの唱和シヤウワあり。其他ソノ騷ホカ
人の詩賦シフ歴代名人レキダイメイジンの著述チヨジツ勝て數カガある暇イヒマあ
らば。西清詩話セイセイシワハヨ唐時タウノトキ茶品チャヒン多しといふ
も。惟タビ湖州コシウの紫筍シシユン茶チャ貢ミツギ不入コトク。紫筍シシユンハ顧渚コチソ山ヤマ
生キタ湖常二郡コジヤウニグンの間アヒダあり。採茶チャウの時トキ不アタ當タつて兩
郡クンの太守タイシ畢コトクく至イタる。宋盛會ソウモクセイあり。杜牧トボク詩シハ溪

盡ツキテ停トメ蠻ハン棹タラ旗ハタ張ハツ卓タツ翠ス苔ダイニ劉リウ禹ウ錫シカ詩シ。何イッ處ケト人ト間ガ
 似ニ仙セン境キョウニ。春シヨ山ザン携タセテ妓ギ採トル茶チヤ時トキとトるルもモとトもモ。當タウ時ジ
 の光クワ景ケイ想オモひヒるルべベ。宋ソウの代ダイ子シ至シてハいイよヨ。
 盛サカ入リりリて。開寶カイハウ宋ソウ太タ祖ソ年ネン間カン命メイとトて龍團リョウタンをツク造ツク
 らラしシ免コ御モツ物モノとトして。庶人シヨジンの用ヨウ小ソコ別ワカつ。其後キノチ丁テイ謂イ
 蔡サイ襄シヤウ小シヤウ龍リョウ團タン小シヤウ鳳ホウ團タンをツク造ツクりテ御キヨ小ソコ進スむ。此時ジ
 代ダイまマでハいイかカ團タン茶チヤとトて。茶をツミ摘ミ蒸ムしテ擣ツキて團とト

かカしシ炙アスりテ末マツとトなナりテ用ヨウゆ。明朝メイ小ソコ至シり始るハジ
 芽ガ茶チヤをハ用ヨウひ。龍鳳トウ等トウの團ダン茶チヤ皆ミナ廢テイれルる。とうトや。ハチチヤヤ
 田デン藝ケイ衡カウ煮カ泉セン小セウ品ヒンとトいイふ。茶之チヤノ團ダン者ダケル片モノ者ヘシ皆ミナ碾テン
 磴カイの末マツ小ソコ出イッ既スデにシ真シン味ミをソ損ソし復油マタ垢ユをク加クふ。アララケケ
 即ス佳カ品ヒン小ソコあアる。總てスベ今イマの芽ガ茶チヤ小ソコあアる。とうトや。ハチチヤヤ
 盖ケ天テン然ゼンのケをケはハかカのノづヅ。勝マれル耳ノとト其ハ芽チヤ茶チヤ
 をタ貴クぶ。とうトや。ハチチヤヤ
 本ホン朝テウとトいイふ。

嵯峨^{サガ}天皇^{テンノ}御宇^{ミヨウ}弘仁^{カウニ}六年^ニ近江^{シガ}國^カ滋賀^{シガ}韓崎^{カラサキ}御幸^{ミヨキ}したまひし時^{トキ}梵釋^{ボンスジ}寺^ジの永忠^{エイチウ}僧^{ソウ}都自^{ミツカ}ら茶^チを煮^ニて奉^{タテマツ}れるようし。まゝ同^{ドウ}くごの六月^{ゴク}五^ゴ畿内^{キナ}並^{ナヒ}は近江^{シガ}丹波^{タニハ}播磨^{ハツマ}國^{クニ}等^{トウ}か仰^{オホ}せし茶^チを植^{ウヱ}しめ貢^{コウキ}ふ奉^{タテマツ}らしめたまふし。類^{ルイ}聚^{ジュ}國史^{コクシ}ふあるこれより弘仁^{カウニ}六年^ニ唐^{タウ}の憲宗^{ケンソウ}元和^{ケンワ}十年^{ジュン}か當^{アタ}り遣^{ケン}唐使^{タウシ}並^{ナヒ}僧徒^{ソウト}の往來^{ワウライ}毎々^{ツネツグ}ありし比^ヒを

れは茶事^{チャジ}も習^{ナラ}ひ傳^{ツタ}へ來^{キタ}れるあるべし。志^シるれども盛^{シカ}んは行^{オコナ}はることも聞^{キコ}はば其^キ後^{チウ}建仁^{ケンニ}寺^ジ開山^{カイサン}千^{セン}光^{クワウ}國師^{コクシ}宋^{ソウ}は行^ユき建久^{ケンキウ}二年^ニ歸朝^{キテウ}の時^{トキ}茶子^{チャシ}を持^{モチ}來^{キタ}り。築紫^{ツクシ}の背振^{セフリ}山^{ヤマ}に植^{ウヱ}試^シみ京^{ミヤコ}に上^{ノボ}りし後^チ。柵尾^{トガノフ}の明惠^{ミヤウエ}上人^{オウジ}の贈^{オク}らる。上人^{イシ}醫師^シは問^{トハ}はる。茶^チを眠^ミを覺^{サマ}し氣^キを晴^{ハラ}はる徳^{トク}ありとこそ。勤學^{キンガク}の僧徒^{ソウト}乃^{タス}助^{タス}けりもあるべしとて。

則^{スチ} 柵尾^{ウエ}は種^{ウエ}られしを。其後宇治^{ウチ}の里^{サト}は移^{ウツ}
 植^{ウエ}しより。土地^{トチ}の空^{ヨロ}しきも應^{オウ}ト。其製造^{ソノセイ}も年々^{トシク}
 精密^{セイミツ}なるを。世^{タガ}の類^{タガ}ひるも上品^{シヤヒン}出来^{イデ}と
 一^{イチ}より。茶道^{チャダウ}日々^{ニチニチ}に盛^{シメ}んより。王公^{ワウコウ}乃^{ナリ}貴^キ
 玩^{ワン}隱逸^{インイツ}の清賞^{セイシヤウ}とあり。今^{イマ}ハ玉樓^{ギョウロウ}金殿^{キンデン}より
 柴門^{サイモン}茅屋^{ボウオウ}を^{モテ}翫^{アソブ}び。それを賞^{シヤウ}せざるハ
 ち^チに成^{ナリ}ぬ。徳潤^{トクジュン}祖先^{ソノセン}より業^{カフ}を傳^{ツタ}へ。諸^{シヨ}

國^{コク}の茶園^{チャエン}を置製造^{オキセイハウ}に心を碎^{クダ}き。曾^{カタ}て聞^{キク}る所^{トコロ}
 の茶事^{チャジ}の中^{ウチ}より。煎茶^{センチャ}の要^{ヨウ}と聊^{イサカ}々^{イサカ}に志^シはす
 風流^{フウリウ}の韻^{オン}士^シ花朝^{カウ}月夕^{ゲツセキ}煎喫^{センキツ}の雅玩^{ガガク}の備^{ソナ}わめ。
 茶之^{チャノ}效^{コウ}

茶之效

茶^{チャ}經^{キョウ}あはす。茶性^{チャセイ}至寒^{シカン}。寂^{シヤク}精行^{セイコウ}儉德^{ケントク}の人^ト身^ミ
 空^{ヨロ}し。若^{モシ}熱渴^{ネツカク}し。凝悶^{キョウモン}腦痛^{ノウツウ}目澁^{メクシ}。四支^{シシ}煩^{ワン}く。百^{ヒヤク}
 節^{セツ}不舒^{フシュ}。あはす。四五^{シゴ}吸^{スリ}せは。醍醐^{ダイゴ}甘露^{カンロ}と衡^{ヘイ}



と抗アラフふべし。本草拾遺ホシガウシフホふいそく。人真茶シンチャを飲ノシハ
よく渴カツと止トム免食シヨクを消セウし。痰タンを除ノカき睡スミり少スチく。
水道スイダウを利リし。目メを明アキラくし。意思イシを益マシし。神農
食シヨク經キヤウふいそく。茶茗チャメイ久キウし。服フクせむに空ヨロし。人を
し。力チカラ有志アツチヨシを悦ヨロびし。陶弘景タウカウケイふいそく。茶ハ身ミを
輕カウく骨ホネと換カウ。昔丹邱子シキタンキウシ黄山君クワンサンクン
服フクし。本草ホンソウふいそく。神農百草シノノヒヤクサウを嘗ナめ一日イチニチし。と
共トモふ古コの仙人シヤンジンあり。出デ身をミと

七十毒ドクふ遇アふ。茶チャを得エてこれコノを解ゲし。今人イマジン服フク
薬ヤクの時トキ茶チャを飲クむ。ハ。薬氣ヤクキを解ゲせんことを恐オソむ
てなり。蘇東坡ソトウバ曰イハく。人固マコトは一日イチニチも茶チャあらずべから
ず。毎食マイシヨク後ゴ濃茶ノウチャを口クチを漱スけハ。煩膩ワンニ既スデに去サ
す。脾胃ヒおのづから清キヨし。肉ニクの齒ハ乃ナラバ間マあるのみ。
茶チャを得エてことごとく消縮セウシュクし。覺オホし脱去ダツサり。刺シ
挑トウと煩ワザラさび。齒ハの性セイ苦カキふ便ベンなり。茶チャによろて益マシ

堅密ケンミツより。毒コドク自オソカら止ヤむ。鶴林玉露カクリンギョロのいそく。

茶チヤハ昏コンを滌ソウひ。滞タイと雪スミを學ガクを務ツト免マク政セイを勤ツトむ

る。於オイて。助タスけあるんば何ニも。東鑑トウカンのいそく。建ケン

保三年二月二十日將軍家ホウ右大臣ミナモトノナリ實朝公ノボ御病惱諸ミヤマツナフシヨ

人奔走ニホンソウひ。こゝ小葉上僧正コハノウエソウジヤウ千光チカウ御加持ミカカチ小伺コウケ

候コウの處トコロ。此事コトを聞ク。本寺ホンジヤウより茶一盞チヤイツサンを召進メシマシら

せらる。且カツ茶徳チヤトクと譽ホシふる書一卷シヨクを添ソへ獻ケンせ

らる。將軍家御感悦カンエツと云々。此一巻の書ハ今に

傳ツタへれる喫茶養生記キツチヤヤウシヤウキなり。其序シヨはいそく。茶ハ

養生ヤウシヤウの仙藥センヤクあり。延齡エンレイの妙術ミョウジツなり。山谷サンコウは出

れを生シヤウひ。其地シチ神靈シンレイなり。人倫ジンリンこれと採トる。其

人長命チヤウメイなりと云々。右の外ミナも茶徳チヤトクを頌シヤウむ

る古今コキンの語句ゴク。故舉コトヘキヨに暇ヒマあらず。今世上イマセウジヤウ貴キと

なり。賤センなり。朝夕アサユラこれを賞シヤウむること。誠マコトなり

空^ムち^ウる^ウ形^ノ。

蔵^{オサム}茶^ヲ

劉^{リウ}介^{カイ}翁^{オウ}茶^チ史^シは^ハい^イも^モく^ク。茶^チハ^ハ箬^{ジヤク}葉^{エフ}に^ニ空^{ヨロ}しく^ク。香^{カウ}藥^{ヤク}

を^ヲ畏^{オソ}む^ム。温^{オン}燥^{ソウ}を^ヲ喜^{ヨロコ}び^ビ。冷^{レイ}濕^{シツ}を^ヲ忌^イむ^ムと^ト。貯^{タク}め^メる^ル所^{トコロ}ハ

磁^ジ缸^{コウ}錫^{シヤク}瓶^{ヘイ}を^ヲ用^{ヨウ}ひ^ヒ箱^{ハコ}ハ^ハ入^イれ^レ。冷^{レイ}濕^{シツ}を^ヲ忌^イむ^ムと^ト。貯^{タク}め^メる^ル所^{トコロ}ハ

蔵^{オサ}め^メ置^{オク}る^ル。錫^{シヤク}瓶^{ヘイ}ハ^ハ精^{セイ}工^{コウ}二^ニ重^{ジュウ}蓋^{タイ}を^ヲ用^{ヨウ}ひ^ヒ箱^{ハコ}ハ^ハ入^イれ^レ。冷^{レイ}濕^{シツ}を^ヲ忌^イむ^ムと^ト。貯^{タク}め^メる^ル所^{トコロ}ハ

ざる^ヲ用^{ヨウ}ひ^ヒ。磁^{ヤキモノ}壺^{ツボ}も^モ製^{セイ}の^ノ佳^カなる^ルもの^ヲと^トよ^ク。燥^{カウ}

用^{ヨウ}ひ^ヒ。壺^コの^ノ口^{クチ}を^ヲ固^{カタ}く^ク封^{フウ}じ^ジべ^ベ。紙^{カミ}囊^{フクロ}ハ^ハ入^イれ^レ或^イハ

紙^{カミ}裹^{ツミ}。宿^{ヒトヨ}を^ヲ經^フる^ルを^ヲ忌^イむ^ム。若^{モシ}梅^{バイ}雨^ウ溽^{ジュウ}暑^{シヨ}ハ^ハ遇^アハ

一^{ヒト}に^ニ焙^{ホイロ}して^テ瓶^{ツボ}ハ^ハ入^イれ^レ封^{フウ}じ^ジる^ル。置^{オク}べ^ベ。唐^{モロコシ}山^{サン}を^ヲ

ハ^ハ箬^{サノ}葉^ハを^ヲ乾^{カラ}か^カす^ス。茶^チ壺^{ツボ}の^ノ外^{ソト}を^ヲ周^{シウ}圍^ウい^ヒて^テ。外^{ソト}箱^{ハコ}ハ^ハ

入^イて^テ冷^{レイ}濕^{シツ}を^ヲ防^{バウ}禦^{ギヨ}す^ス。さ^サあ^アら^ラる^ルべ^ベき^キこと^トあり^リ。

擇^{エラフ}器^ヲ

煎^{セン}茶^{チヤ}の^ノ用^{ヨウ}ハ^ハ器^{ウツ}を^ヲ擇^{エラ}ぶ^ブを^ヲ要^{ヨウ}す^ス。砂^ド瓶^{ビン}ハ^ハ薩^{サツ}摩^マ

と上と云。京都名工の精製。長崎の龜山肥前
の伊萬里其他國々の製する所。救舉小暇
あり。人々の好みに従ふ。但其美醜を論せ
ば。浄潔にして小なるを佳し。小なれば氣味
渾和易し。且一煎の茶主客二三巡して
盡き。残茶を捨去るの費あり。残茶を捨り
再び用ゆる時も必よく洗ふべし。舊染浸淫

のそのハ。水と煎し。椀札し。剥滌ひ。茶垢を
去りて用ゆべし。茶盃ハ舶來の上品。龜山平
戸唐津伊萬里近來諸州の製造精好。浄潔を
るりの少かり。厚手し。内白色をり。と擇ひ
用ゆるべし。

擇水

茶經。水ハ上。山水ハ上。江水ハ次。井水ハ下。其

此

山水ハ乳泉石池漫流のそのを取。江水ハ入を
去るると遠きものを取。井水ハ汲と多きものを
と取。然れども國々の江山。氷性同ト知ら
び。茶ふよくゆふとあはざるをゆり。よく試と用ひ
て清冷輕甘なる水と擇ひ用ゆべし。井水を
佳といふも。二三遍も砂漉しして用ゆべし。漉
ると漉ざるとハ格別の違ひあり。江水も大

雨の後なるとハ。必漉て用ゆべし。水を貯あるにハ。
清浄ある甕み入す。甕口を固く封ト。陰涼な
る所に置べし。日下ハ曬とべし。又江湖清
流水中の白石子を取。甕中み入置ば。よく水を
澄む。石子ハ潔白しして透徹なるを用ゆべし。
小白石子を瓶中み入す湯を滌むハ尤妙あり。
黄山谷詩に。錫谷寒泉。掬石俱といふハ是あり

雨水アミも時節シセツによるヨるル佳カなり。唐山モロコシよりシてハ梅雨ハイウ
 の時トキ。缸コウ甕ソウをいハくルも並ナラべク。雨水アメを取リ煎茶センチャ乃ハ
 用ヨとシ。梅水ツユハ久クく貯タマつク変カるルとシたリとシて
 也。但タ暴雨ボウウ白雨ハクウ及ツひヒ簷滴エンテキハ用ヨゆベくル也。雪水セツスイも
 又佳カなり。沆ハン勝ショウ之書シヤクあハまク。雪ユキハ五穀ゴコク之精ノセイを
 取リ。取リとシりテ茶チャを煎イウジンぶル幽人ユウジンの清况セイケツと。丁謂テイイ
 詩シ。痛惜イタク蔵書ソウショ篋ケツ堅留ケンリウ待雪テイセツ天朱テンシュ子詠シヨ雪詩セツシ
キヨキオモキ

瀾甘ニテアキヤ差喜サキ破龍團ハクリョウダンとシり。陶穀タウコク學士ガクシ雪水セツスイを取リ
 茶チャを烹イウテンくル事コト。一典イツテン故コとシりテ雪天セツテンの雅興ガキョウ
 風流フウリウの士シの尚タウが所トコロとシりテぬ。但タ臘雪ラフセツハ一切イツセツ乃ハ
 毒ドクを解ゲくル。春雪シユンセツハ虫ムシりテ用ヨゆベくル也。

擇ツク炭タン

茶經チャキョウにハいハまク。其火カハ炭タンをヨゆベくル也。其炭カ曾ソウてハ燔炙ハンシヤ
 を經ヘ膾セン臑ノ所トコロ及ツてハ用ヨゆベくル也。炭タンハハりテ

臭氣シウキのりもあらず。大小茶の香味を害ガイひ。よく
擇エラひ用ゆべし。

湯候
コカゲン

茶史サシのいさく。煎茶サシ三沸ミフツの法あり。李南金リナンキンの

砌虫セイチウ唧々シツク萬蟬マンセン催忽モヨボス有千車チヤコン相載サイシ來聽キエテ得松風シヨウフウ

並澗水ニョクニ急呼キウニ縹色ヘウシヨク綠磁リョクジ盃ハイといさくハ過老クワラフなり。

羅景綸ラケイリンの松風シヨウフウ檜クワイ兩到リウトウ來初キョウキウニ急引キウヒン銅瓶トウビン離竹爐リチキロ

といさくハ火候を得さうといさくハシカ然れとを

湯嫩ワカくれバ茶味甘く。湯老シメキくると茶味苦く。茶

小真味あり。甘苦カンクのり。不嫩フナ不老フナをのり。

湯候を得さうといさくハト井シ屠緯真トウイシいさく。老

嫩と。皆非ヒなり。坡翁詩ハクワンシ蟹眼カイガン已過スデニ魚眼イソガン生ウマシウ颯サ

颯シウ欲作ホツス松風聲シヨウフウシヨウといさくハゴト如きハツクこれを盡ツクせり

といさくハ

煎法并焙

李南金性嗜茶嘗てり。茶ハ緩火クワカ炙り。活火クワカ煎べり。又ハち茶經に魚目湧泉連珠イキリタルヒを以て水と煮るの節セツと云。然れども近世ハ瓶を以て煮る由一候ウカし視ミぐる。聲コエをりて辨ベンじ。始ハ魚目散布ハヨセクサン微々有聲アルコエを一沸イチヒと云。中々ハ縁邊エンヘン湧泉ウツセン累々ルイキク連珠レンジュを二沸ニヒと云。終マタハ騰波トウハ

鼓浪奔濤コラウホン濺沫トウセンマツを三沸サンヒと云。され亦南マタナ金の節キンセツと云る所トコロて過老ソキオ不似ニたり。然是マタナも嫩甘トシカンを好む人コノなり。苦烈クレツを嗜タシむ人あり。太平清話タイヘイセイワめいも。蔡君謨サイクンボの湯ユ嫩ワカキを取トリて老オシを取トラざるハ團茶ダンチャの爲タメなり。所トコロあり。今旗イマキ芽ガ鎗サツ甲カ芽ハ茶チャ湯候タウカウ足タラされバ茶神シシトラ透トヲらむ。茶色シヨクアキヲ明アカく。故ユヘニ茗戰メイセンの捷カチ尤モトモト五沸ゴヒハあると。嫩老ドンラウ各オノオノ

取る所に従ふべし。三沸五沸より活火をあらし
ざれば成び。炭火の燄ゆるを活火と云。其湯候既
ふ熟しつゝる時。瓶中の茶を入。急火と離し。
蓋をしして須臾しして。瓶の流より湯氣出やみ。
茶葉沈みく色香味ともは熟しつゝるのひつゝる
時。これと供むべし。茶を焙ずるは緩火よりし
燴々と焙す。茶葉をこしし濕りつゝる時。火を離し

乾かす瓶に入べし。緩火の炙り活火の煎るを
團茶を煎るは法と云ふもの。芽茶を煎るは毛
外の法なり。上好の茶をよく蔵め置る。濕氣
なきは焙むを極うらび。但久しく貯ひ置て梅
雨溽暑等よりひて濕氣出するはかあるべし
焙びべし。平等の茶は煎むるに臨むる必焙
むべし。若茶を洗ふは小籠をとりつて。茶葉

と盛茶碗の上に置湯を掛け箸を攪て塵
 垢を漉し出し去り。然後に瓶中に入る。色味
 極めよく。只疾速を要とん。緩漫をれを。茶
 氣脱てよろよろび。西國産唐製の茶ハ氣
 烈しきに過。尤洗ひをよ。初ハ色嫩く氣柔あり。
 一瓶の茶再巡をべ。初ハ色嫩く氣柔あり。
 再巡ハ醇美芳烈なり。三巡ハ苦烈ありて。喫と

べろび。武林の許次紓嘗て馮開之と戯れよ
 茶候と論び。初巡ハ婢々嬢々十三餘とん。十三
 の美少。再巡ハ碧玉破瓜年とん。十六七歳娘盛り乃
 女あり。三巡以後ハ綠葉成陰子滿枝とん。二十
 婦人の名あり。開之大はこれと然りとんと。然れも茶
 味の甘美苦烈濃淡老嫩おのづかしく嗜む所あり。
 人々の好む所ハ任まべ。再巡以後ハ別論

置オキくる湯ユとさス。濃タシ淡タンを調トひて供スミべし。但タシし
あアらラみミきキりリて湯ユとさスせセバ味アジよりリかカらラじジ。

淹ダン茶チャ

淹ダン茶チャハ小瓶コトビンを洗アラひ。温アトめ乾カラし置オキ別ツの土瓶ドビンまマこ
ハ古フルき鐵罐テツビンに湯ユを瀾ワカし。湯候ユカゲ熟シユクしシ時トキ温アトめ
置オキくる小瓶コトビンに茶葉チャエフを入イれ。湯ユを沃ツぎ入イれ。蓋フタをスしシ
志シをスしシ熟シユクせセしシめメくク。これコノを供スミむ。唐茶タウチャ並ナヒ西サイ

國産コクノサン唐製タウセイの茶チャハ煎ヒンむムるニよリかカらラじジ必カナラ淹ダン茶チャ
おオまマべベし。且セシ煎茶センチャハ湯ユ三沸サンフツの時トキ茶チャを入イれ。茶
味アジ早ハヤく熟シユクしシて。苦味クミ過スるコトあアらラじジ。又マタ茶チャを入イれ
時トキ湯沸騰ワキアガりリ瓶口ビンクチより吹フキくク事コトあり。淹ダン
茶チャハ此患コノウレハなナしシ。淹茶ダンチャを喜ヨシむ人ヒト多オホし。煎
むムるコトも淹ダンむムるコトも要ヨウ其互オノオノしシをウ得ウるコトあり。此コノを
取トリ彼カレを捨スツるコト。



陸龜蒙
貫齋書



昨日鬪煙粒
今朝貯綠華
爭歌調笑曲
日暮方還家
陸龜蒙

貫齋書

茶之産

諸國の産する所トコロ各一方オカ、イツハウ小名ナありとふナも。古コ來ライより城州ジヤウシヤウ宇治ウヂと絶品セツヒンとい。江州カサシヤウ信樂シガラキ越溪エツケイの上品ジョウヒンハ。宇治ウヂ小讓コツらヒ肥前ヒゼン嬉野ウレシノ相良サガラ肥後ヒゴノ玖摩クマ。女良メノ播州ハシ仙靈センレイ勢州セイシヤウ菰野コモノ尾州ビシヤウ内津ノウ濃州ノウシヤウ虎溪コケイ。駿州スンシヤウ阿部アベ蘆久保アシクボ等トぞめメはハこの諸州サン産サンする所所。山川カウハイの向背ムキ土地チの寒暖カンダンおオよりリて。香味カミキおオめメく

記キをオくクかカらラばバ其ソノ名品メイヒンを得エハハくク用ヨウひヒす。清セイ

賞シヤウ小供コキヤウ以ヨてテ爲カす。

百花ヒヤク茶チャ

月令グワレウ廣義クワウキおオいイすス。木樨モクサイ茉莉マリ玫瑰クワイ蘭花ランカ蓮花レンカ梔シ

子花シカワ木香モクカウ花梅カウメイ花皆カウミナ茶チャおオ拌ハンすス。清嘉録セイカロクおオいイ

すス。珠蘭シユラン茉莉マリ花他カウタ省シヤウよりリ來ライすス。山塘サントウのノ花肆カウシ

おオ集ツマるル。茶葉チャエフ鋪買ポホすスのノりリてテ配茶ハイチャのノ用ヨウとトいイふフ。

今蓮花茶とつふあり。半開蓮花の内は。茶葉を
 入イレイト。絲イトをくくると。一宿ヒトヨして曉露ケウロを含フクむ時。取出
 して。直スダに熱湯ネツタウを入イるれば。花香カウ茶味チヤミともにハツ幾ハツ分フン。
 蘭花梅花ハ。花を摘ツミて茶チヤに配アハせ。一宿ヒトヨして花片ハナヒラ
 を取り捨ステて。それを用ヨゆ。あるひハ。蒸露シュロ罐カンをゆつ
 ぐ。梅花菊花などの露を取トリ。一滴ヒトシヅクを盃チヤウ中チュウに投イルる
 として。瑞香ズイカウ花クワハ毒ドクあり用ヨゆ。庭ニにシて。上好ヨロシキ

の茶ハ。花香イムと忌シヨク諸花シヨクを配アハせれば茶の真味マシを奪ウハ
 小平等ヘイトウの茶あるひハ上茶ウヂヤの久キウく貯チひて。茶氣チヤキ脱ダツ
 くと用ヨゆ。これ茶家の真賞マシヤウのゆゑとつ
 とも幽人ウイジンの一韻事イチオンジなり。一概イチカイふこれを廢ハイスべしとつ
 又マタ桑茶クハチヤ枸杞茶クキチヤ五加茶ゴカチヤ等トウあり。枳殼キコク芽ガ枸杞芽クキチヤ
 枇杷芽ヒバチヤも風痰フウタンを治チはと茶史チヤシにシ入イる。菊苗キクベウ
 柳芽リウガを製セイして茶チヤを造ツクると花間拾遺クワカンシフイありと
 十ジュウ九ク

くろく。これまゝ時トキ小臨ノソみくもくこれを用ひ。清セイ興キョウ小供キョウして可カなり。

茶食

喫キツ茶チャ席上セキジヤウの下口クチトリハ。淡泊タンパクの清味セイミを用ひべし。

多オホく食シヨクひべし。多オホく食シヨクし又甘アマき小過スグれば茶味

小害ガイあり。食シヨクせざるはハ志シかざるべし。煮泉シヤセン小品セウヒン小

いそぐ。今人コンジン茶チャを薦スむるに類オホムチ茶菓チャクワと下クダひ。此コレ尤モトモト俗

小近コチカし。縦佳タトヘカなるもの能ヨク真味シンミと損ノシひ亦ナく

新ニしくこれと吞ハむべし。然シカりといふも甘カン

苦辛クシン鹹カンわめく其味ミあり。まゝ一概イチ小廢ガイとん

かゞび。其時シと其人ニと小シようそ取舎シユめるべし。

清賞

酒樓シユロウ妓館キクワン茶チャの地チ小あらし。吹彈スイタン歌舞カハ茶チャの席セキ

小あらし。錦帷キンイ繡幕シウバク茶チャの設モフテ小あらし。金盞キンサン玉盃キョクハイ茶チャ

